

令和元年度事業経過報告

社会福祉法人 蘇南会
グループホーム すみれ

令和元年度グループホームすみれの事業経過であるが、前年度の課題である稼働率については、前年度85.5%から95.3%まで向上した。各スタッフが稼働率に対する高い意識をもち、働きかけを行った結果だと思われる。また、事故に対しても昨年度は骨折3件を含め合計11件発生したが、今年度は1件(転倒、前額部打撲)のみであり大きな事故なく過ごせている。スタッフ間で密にコミュニケーションをとることで気持ちの余裕が生まれ、集中して入居者に対応することができていたためではないかと思われる。

令和2年度も、稼働率や事故防止に重きを置き事業を運営していきたい。

【運営方針に対する反省】

①入居者の自己実現への支援・健康管理・栄養管理

入居者一人一人の、趣味嗜好、生活パターンをできる限り維持できるよう個別に対応できた。入居者の想いを言葉のみでなく、活動中の様子などから日々汲み取り、自尊心を大切にしていく。また、健康面では毎日の健康チェックを行い、体調変化が見られるときは、主治医へ相談、早期受診へとつなげることができた。早期受診により、入院する入居者が減少したと思われる。

食事の面では、ご家族の差し入れや収穫した野菜、山菜を随時使用し、調理を行うことも食べることも楽しみとなるような食事を工夫できた。

②介護計画・サービス評価・情報の公表

日々、入居者とのコミュニケーションを大切にし、些細なことでも情報を収集し、入居者が自分らしく生活できるような介護計画を立案できた。施設の自己サービス評価はできなかつたため、来年度は実施できるよう取り組みたい。

③家族・地域との関わり、支援ネットワークの構築

家族とは、日々の連絡や家族会などでコミュニケーションの機会が多く、信頼関係が築けている。2月23日より新型コロナウイルス感染防止のため面会制限を行っているが、電話や窓越しの面会等を行っている。

運営推進会議やお達者会、オレンジカフェ、ランチの旅等で地域との関りの機会を設けているが、住宅地から離れており日常的に密接な関係は保たれていない。しかし、今後も地域の方や町行政との連携は取っていききたい。

④災害対策、事故対策

火災時の避難訓練時、屋外スロープに農作業の物品が置いてあり消防署より指導を受けた。避難路の整備、確保が必要であった。自然災害時の訓練はコロナウイルス感染予防のため延期になり行っていない。終息後は速やかに行いたい。事故に関しては、平成30年度11件から転倒事故1件と減少できた。

⑤職員の資質の向上・コミュニケーションの円滑化

職員同士のコミュニケーションは密に行えている。特に、連絡ノートの活用で伝達漏れがないよう心掛けている。